

研究実施のお知らせ

2023 年 9 月 12 日 ver.1.0

研究課題名

ダブルバルーン小腸内視鏡併用 ERCP による膵管空腸吻合部狭窄治療に関する後ろ向き研究

研究の対象となる方

2012 年 4 月から 2023 年 9 月の間に島根大学医学部附属病院で膵管空腸吻合部狭窄と診断され、ダブルバルーン内視鏡を用いた治療を受けられた方

研究の目的・意義

膵管空腸吻合は主に膵頭部や胆管、十二指腸の悪性腫瘍に対して切除術をした際に行われる吻合であり、肝胆膵外科領域で最も重要な吻合の一つです。膵管空腸吻合の合併症の一つに膵管空腸吻合部狭窄があり、それにより膵臓の機能が低下し耐糖能異常などを来すことが問題となっていました。かつては膵管空腸吻合部狭窄に対して治療の選択肢が限られていましたがダブルバルーン内視鏡が開発され 2009 年から当院でも膵管空腸吻合部狭窄に対するダブルバルーン内視鏡を用いた治療を積極的に行っています。以前より治療の選択肢が増えたものの、狭窄の再発を繰り返し、糖尿病が悪化する患者さんが一定数おられます。本研究を行うことにより膵管空腸吻合部狭窄に対しダブルバルーン内視鏡を用いた治療の長期予後に影響する項目を明らかにすることで成績向上が期待できると考えています。

研究の方法

利用する診療情報の項目： 以下の 10 項目を取得します。

- 1) 年齢、性別
- 2) 糖尿病の有無
- 3) 内服歴（プロトンポンプ阻害薬、ウルソデオキシコール酸）
- 4) 原疾患
- 5) 最終術式（再建方法）
- 6) ダブルバルーン小腸内視鏡を用いて膵管空腸吻合部狭窄の拡張またはステント留置術に成功した日
- 7) 体重の推移
- 8) HbA1c の推移

- 9) バルーン拡張術の最大径
- 10) ステントのサイズと本数

研究の期間

2024年2月15日～2025年9月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院消化器内科 福庭暢彦

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2025年5月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院消化器内科 福庭暢彦

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2190 FAX 0853-20-2189